

令和3年度 さいたま市立泰平中学校 学校関係者評価書

さいたま市立泰平中学校

学校関係者評価委員長 鈴木 健司 印

1 学校関係者評価の実施体制

- (1) 構成人数 9名
- (2) 実施回数 3回

2 学校関係者評価（学校関係者評価委員の意見等）

(1) 評価全般を通して

- ・規範意識や教育環境の美化・整備に関する質問項目では、生徒、保護者ともに過去3年間、肯定的評価が9割を上回っており、落ち着いた学習環境のもとで本校の教育活動は展開されていることがうかがえる。
- ・生徒の学校生活に関する質問項目では、令和2年度の集計結果より0.7～4.2ポイント上昇している。その理由としては、今回の集計は緊急事態宣言等が解除された時期であったため、やや好転的な回答が得られたものと捉えられる。ただし、全体的に、生徒よりも保護者の肯定的評価の割合の方が低い傾向がみられる。

(2) 基礎学力について

- ・授業に関する質問項目「授業に意欲的に取り組む」「基礎学力が身につけている」「わかりやすい授業をしている」について、令和2年度の集計結果とそれぞれ比較をすると、生徒は0.2～2.9ポイント、保護者は2.7～5.0ポイント上昇している。しかし、いずれの質問項目についても、生徒より保護者の肯定的評価の割合が低い傾向がみられる。これは、長引くコロナ禍における「学習に意欲がもてない」生徒や、学力の二極化に伴う「授業についていけない」生徒の存在など、保護者にとっての学習面への不安があると捉えられ、学校は、家庭や地域に対する丁寧な説明や、個に応じた指導のさらなる充実が必要であると考え。
- ・「家庭学習」に関する質問項目については、生徒、保護者とも、すべての質問項目のうち最も肯定的評価の割合が低い質問項目となっている。いわゆる中1ギャップと呼ばれる学習面でのつまずきや家庭学習の習慣化が図れていない生徒への助言、家庭との連携強化が望まれる。

(3) 生徒指導・教育相談等について

- ・「教師は悩みや相談事に親身に応じている」という質問項目での肯定的評価について、保護者は2.9ポイント上昇したが、生徒は0.6ポイント下降した。コロナ禍において、学校行事や部活動をはじめとする教育活動が制限される一方、教師は、感染症対策をはじめとする教師の多忙化も重なり、教師と生徒のコミュニケーションの場が不足していることも理由として挙げられる。学校には、生徒たちの小さなサインを見逃さず、日常的に生徒を見守り続ける体制の維持を期待したい。
- ・生命尊重や健康・安全に対する質問項目は、生徒の肯定的評価が3年連続で94%以上を維持しているが、学校給食に関する質問項目において、令和2年度の集計結果と比較すると、8.2ポイント下降している。黙食による喫食が長期にわたり行われていることの影響と考えられる。

学校関係者評価を受けた学校の対応

- ・市内には多数の感染者が発生する学校も存在する中、現時点で、本校はそれほど大きな感染症の拡大がみられることもなく、日々落ち着いた学習環境で教育活動が展開されている。その要因として、各家庭における日々の感染症対策の実施や、学校公開の中止や学校行事の縮小に対する保護者や地域の方々の理解、PTA活動による様々な学校への支援によるものと捉えている。一方で、30日以上欠席している生徒が多数存在する教育相談への対応は、喫緊の課題である。家庭環境も複雑化し、欠席日数が長期化していることから、各家庭に寄り添いつつ、個に応じた指導や支援ができるよう、「学校における働き方改革」の視点から教職員が生徒と向き合える時間を確保するとともに、関係機関や地域との連携を一層図っていくことが必要と考える。加えて、GIGAスクール構想が本格的に始動し、2学期のハイブリット授業の開始をはじめ、令和3年度における授業のICT化は大きく進展した。今後は、よりICTを効果的に活用した教職員の授業力の向上を図り、生徒の基礎学力の向上に向けて組織的・計画的に取り組んでいきたい。

さいたま市立泰平中学校長 鈴木 純 印